



11月の園だより

令和4年11月1日

目黒区立八雲保育園 園長

運動会を終えた翌週、5歳児数名が「ソーラン やりたい」とフリースペースでソーラン節を踊り始めました。運動会での少し緊張した面持ちとは異なり、肩の力が抜けてリラックスした表情でとても楽しそうです。しばらくして再びフリースペースに足を運ぶと、3・4・5歳児が3歳児の演目を踊っていました。ベンチの上に立った3歳児が4・5歳児の手本となって踊っています。憧れの存在でもあるお兄さん・お姉さんに注目されながら踊る3歳児は楽しくて嬉しくてたまらないといった表情で『運動会ごっこ』は盛り上がりを見せていました。“〇〇組の踊りを踊ってみたいな”という思いを秘かに抱きながら、子どもたちは他クラスの本番までの取り組みを見守っていたのだと思います。

運動会に限らず様々な行事が終わる度、クラスを超えて自由に演目を楽しむ子どもたちの姿が見られます。そこから新たな仲間関係へと発展することも少なくありません。本番までの取り組み過程や、当日を十分に楽しめたかという点も大事にしますが、行事後の遊びの中でどれだけ再現されているかという視点で見ることも大事にしています。行事は日常を豊かにし、そしてまた、日常が豊かであることが生き生きと行事に向かう子どもたちの姿を生み出します。

12月の『わくわく発表会』に向けて子どもたちの気持ちも高まってきているようです。少し気が早いけれど、発表会後の再現遊びも楽しみにしながら表現活動の充実を図っていきます。

11月行事予定

歯科検診（全園児）

内科検診（全園児）

中旬 身体計測 避難訓練

12月行事予定

わくわく発表会

（3・4・5歳クラス）

5歳児クラス懇談会

中旬 身体計測 避難訓練



元気に冬を過ごすために

～看護師～

肌寒い季節になりましたが、園庭で砂山を作ったり泥んこで元気に遊ぶ子どもたちを見ていると、同じように元気な気持ちになります。

冬場は様々な感染症が流行します。空気中のウイルスを完全に遮断するのは難しいことですが、風邪を引きにくい体づくりには、日頃の早寝早起きとバランスの良い食生活が大切です。保育園では、健康教育を通して早寝早起きや手洗いの大切さを子どもたちが考えられるように働きかけています。薄着の習慣も元気に過ごす上で欠かせません。適度な薄着にすることで外気温に触れる機会が増え、体温調節機能が養われていきます。着脱しやすい衣類を選び、戸外と室内の温度差に合わせてこまめに脱ぎ着することを心掛けましょう。



おさんぽ だいすき



めだか組（0歳児クラス）

バギーに乗って初めてパーシモン広場まで出掛ける途中、キョロキョロと周りを見渡し、車や散歩中の犬を見つけると「あっ、あっ」と保育士に教えてくれます。目的地に到着すると、緊張しているのか最初は硬い表情をしていましたが、徐々に慣れてくると「よーいどん」と走る保育士を見て“おもしろそう”と一緒に走り始めていました。目の前に蝶が何匹も飛んできたので、保育士が「ちょうちょさん まてまて」と追いかけると子どもたちも指を差しながら追いかけて、保育士が「いっちゃったね」と空を見上げると同じように見上げていました。

広い場所で思いきり体を動かしたり自然の不思議さを感じたりしながら、保育士と一緒に楽しんでいきます。



らっこ組（2歳児クラス）

どんぐり広場には大木や木の実などの自然環境があり、子どもたちが大好きな場所です。広場に到着すると早速どんぐり拾いを始めました。夢中で拾う子どもたちの姿が木陰に隠れて見えなかったのでそっと近づき「いたいた」と声を掛けるとそこからかくれんぼが始まりました。隠れているはずの子どもたちからは笑い声が聞こえたり「ここだよ」と立ち上がったりとすぐに見つかってしまいます。保育士が「静かに隠れるんだよ」と小声で知らせると、指を口元にあてて“静かに”の仕草をしたり、体をかがめてオニに見つからないようにしていました。どんぐり拾いがかくれんぼへと発展し、どこに隠れようか、どうしたら見つからないか考えたり、友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいます。

子どもたちのわくわく・ドキドキする気持ちに共感しながら楽しい散歩の経験を積み重ねていきます。



お山だ “よいしょ”

あひる組（1歳児クラス）

園庭にたくさんあるタイヤを積み重ねた上にブルーシートを被せて大きな山を作ると、子どもたちは目を輝かせながら登り始めます。勢いよく登ってはみたものの、タイヤの穴がどこにあるかわからないため足を踏み入れたとたんお尻がすっぽりはまってしまうと、保育士が「あら大変、出られなくなっちゃったね」と言いながら抱きあげると照れ笑いをしています。そのやり取りを目にした周りの子どもたちも「おもしろいね」と登り始め、同じ場所に足を入れると「みてみて」と嬉しそうに保育士に声をかけていました。

発達や興味に応じた遊びの工夫をしながら、子どもたちが思いきり体を動かし、心から楽しめるような遊びの環境を整えていきます。

